

研究機関名：旭川医科大学

作成年月日：2025年3月14日（第1版）

承認番号	24187
課題名	旭川医科大学病院における退院時に非母乳栄養となる母乳分泌不足以外の要因
研究期間	西暦 2025年4月23日（実施許可日） ～ 2028年12月31日
研究の対象	2022年1月1日から2024年12月31日までに旭川医科大学病院で出産し退院時に非母乳栄養だったお母さんとそのお子さん。
利用する試料・情報の種類	■診療情報（詳細：母の属性（年齢、分娩方法、初経産、出血量、疾患の合併、など）、妊娠中の栄養方法の希望、混合栄養となったときの気持ち、混合栄養となったときの母乳分泌とその理由、乳頭トラブル、預かり時間、お母さんの訴えなどを電子カルテから抽出します。） <input type="checkbox"/> 手術、検査等で採取した組織（対象臓器等名： ） <input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> その他（ ）
利用予定日	開始日：実施許可日から1か月後
試料・情報の管理について責任を有する者	旭川医科大学 学長 西川 祐司
研究の意義、目的	平成27年の厚生労働省の調査 ¹⁾ によると、1か月健診時の母乳率は51.3%、混合栄養45.2%、人工栄養3.6%でした。母乳育児についての妊娠中の考えは、混合栄養の人のうち「ぜひ母乳で育てたい」「母乳が出れば母乳で育てたい」と約8割が母乳育児を希望しています。 旭川医科大学病院は2005年より「赤ちゃんにやさしい病院」BFH（Baby Friendly Hospital）認定を受けて母乳育児成功のための10か条を順守しており、2024年母乳率は55.8%であった。BFHの基準に則り、早産や母子異室、低出生体重児は母乳率の対象から除外していますが、母乳率の対象には様々な理由から混合栄養を選択する母子が含まれています。本研究では人工栄養または混合栄養になった原因を調査し、母乳分泌不足以外の様々な要因を明らかにすることを目的としています。
研究の方法	本研究の対象は、2022年1月1日から2024年12月31日までに旭川医科大学病院で出産し、BFHの定める母乳率対象で退院時に非母乳栄養となった方です。使用する情報は、電子カルテより、母の属性（年齢、分娩方法、初経産、出血量、疾患の合併、など）、妊娠中の栄養方法の希望、混合栄養となったときのお母さんの気持ち、混合栄養となったときの母乳分泌とその理由、乳頭トラブル、預かり時間、お母さんの訴えなどを抽出します。

その他	
お問い合わせ先	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。</p> <p>照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： 旭川市緑が丘東2条1丁目1番1号 旭川医科大学病院 4階東病棟 亀卦川真由美 電話番号 0166-69-3740</p> <p>研究責任者： 旭川医科大学病院 4階東病棟 助産師 亀卦川真由美</p>